

●中央公論新社 2012年3月新刊のご案内●

『むかし原発 いま炭鉱』

～炭都[三池]から日本を掘る～



映画監督 熊谷博子 著

日本の根っこと未来に向かう坑道がある 原発は何を残そうというのか？

話題の映画『三池』監督、渾身の書き下ろし

映画『三池 終わらない炭鉱（やま）の物語』は、150年以上にわたる、三池炭鉱の歴史に、初めて正面から向き合った映画として大きな反響を呼び、数々の賞も受賞しました。本書は、7年の月日を費やした映画制作の膨大な取材に加え、さらに5年間をかけて執筆したものです。原発と炭鉱をむすぶエネルギー労働の潮流とは？ 三池から日本の根っこを掘り起こします。

●著者略歴●

1951年東京生まれ。75年より、日本映像記録センターにてTVDキュメンタリーの制作を開始。戦争、原爆、麻薬などさまざまな社会問題を追い、85年に独立。戦時下のアフガニスタンに生きる人々を描いた『よみがえれカレーズ』（89年土本典昭と共同監督）、自らの育児経験をもとにした『ふれあうまち』（95年）、日本の女性監督たちの格闘を描いた『映画をつくる女性たち』（04年）などのドキュメンタリー映画を多数監督。右手にカメラ左手に子ども、がモットー。

【本書の目次】

炭鉱は文化を生み出したが、 原発は生み出さなかった
プロローグ——古くて新鮮な物語 ——まえがきに代えて

第一部 「負の遺産」 って何なのさ！ ～三池というまちで

廃坑跡から声が聞こえた／負の遺産！／異種混合スクラム／炭鉱にさわる／地の底で乳をしぼる

第二部 地の底のジグソーパズル ～三池闘争から現代へ

60年の記憶／撮れないものを撮る／それぞれの一瞬／イデオロギーか生活か／分裂工作のシナリオは誰が？／裏の裏のそのまた裏／炭鉱労働者から原発労働者へ／みんな仲間だ

第三部 巨大企業への一刺し ～事故を抱きしめる女たち

妻たちと母たちの地獄／妻たちの坑内座り込み／つぶされた鑑定書／象の足にアリがかみつく／団結公害／負けてそして勝った

第四部 炭鉱（やま）に埋められた歴史

長老の沈黙／切り取られた壁／心に時効はあるのか？／アメリカ人捕虜からの訴え

第五部 炭都シンフォニー

労働への尊敬／撮れなかったものの重さ／負の遺産を富の遺産に

エピローグ——三池の女と夕張の女

（巻末）映画情報／参考文献／炭鉱関係のおもな博物館、図書館／年表



定価2300円（税別） 四六判上製本
ISBN 978-412004343-7 C0095

【連絡先】中央公論新社 編集部 黒田

Mail: t-kuroda@chuko.co.jp

Tel: 03-3563-2024